

第10回日展

第5科（書） 審査所感

審査主任 高木 聖 雨

昨今、世間ではマスクを着けている方が少なくなりました。まだ終息とは言えないものの、コロナ禍もだいぶ落ち着き、少しずつ健全な社会に戻って来たように感じます。

さて、第五科の今回展の応募点数は 8,822 点、昨年度よりも 246 点の大幅な増加がありました。このことは「日展の書」がアフターコロナの中でありながら、さらなる盛り上がりを見せている証だと言えるのではないのでしょうか。入選率は約十三%と、ここ数年で最も厳しいものでしたが、この狭き門に挑んでいただいた全ての出品者の方々に敬意を表し、今後も継続、挑戦していただくことを望んでおります。

審査を通し、今回展ではこれまでも増して意欲的な作品を多く見ることができました。師風からの脱却を図らんとするもの、基調とする古典を異なる視点から捉えんとするもの、表現形式や用具用材を変化させたものなど、新たな工夫や挑戦する姿勢を見て取れました。完成度は高くなくとも、そういった精神は重要だと思いますし、凝り固まった熟練の作に一石を投じるものではなかろうかと思います。審査は当然公正公平な目で行われ、審査員一同真剣につとめました。技術・表現水準の高い作品はもちろんのこと、チャレンジ精神に溢れる意欲的な作品も評価し入落を選定しましたが、苦慮を伴ったことは言うまでもありません。

冬の間じっと寒さに耐え、春となり芽を出し新緑に萌える木々や草花、我々芸術家もそうあるべきなのでしょう。「日展の書」がその土壌であることを期待しております。

搬入数	8,822 点
入選数	1,112 点
(内新入選)	166 点